

令和5年度 第4回千早赤阪村地域公共交通協議会

日時：令和6年1月25日（木） 午後3時～

場所：くすのきホール 2階第2会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 題

議題1号 千早赤阪村地域公共交通計画について (資料1)

議題2号 地域公共交通調査事業の事業評価について (資料2)

議題3号 千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業について (資料3)

3. 報 告 千早赤阪村コミュニティバス運行状況について (資料4)

4. 閉 会

<配布資料一覧>

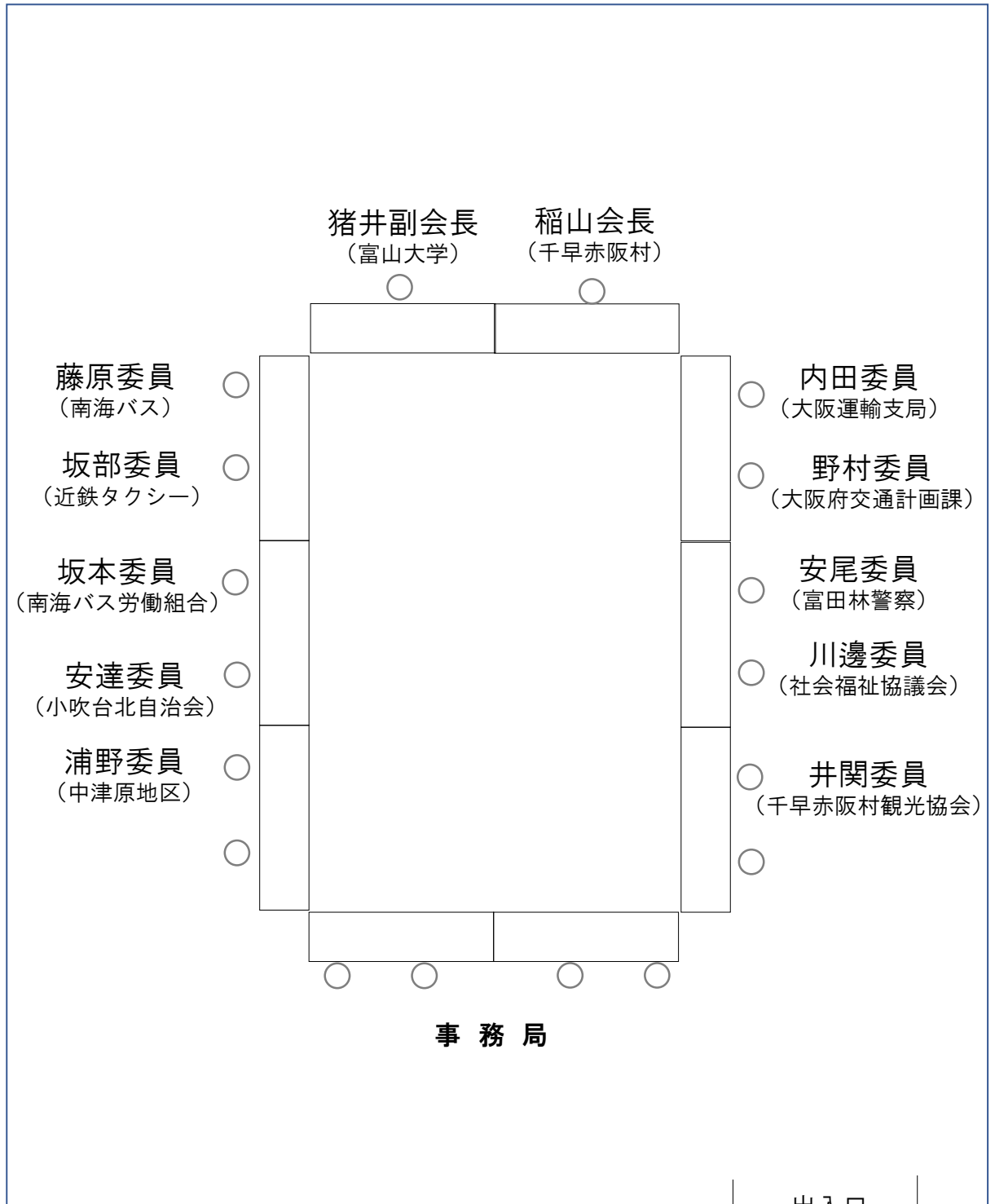
- ・次第
- ・令和5年度第4回千早赤阪村地域公共交通協議会委員出席者名簿
- ・令和5年度第4回千早赤阪村地域公共交通協議会 配席図
- ・資料1 千早赤阪村地域公共交通計画について
- ・資料2 地域公共交通調査事業の事業評価について
- ・資料3 千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業について
- ・資料4 千早赤阪村コミュニティバス運行状況について

令和5年度第4回千早赤阪村地域公共交通協議会出席者名簿

役職	氏名	所属等	備考
会長	稲山 喜与一	千早赤阪村副村長	
副会長	猪井 博登	富山大学都市デザイン学部 准教授	
	野谷 将一	南海バス株式会社 常務取締役企画部長	(代理出席) 企画課 課長代理 藤原 広行
	坂部 英嗣	近鉄タクシー株式会社 南大阪総合営業所 所長	
	小川 和彦	大阪第一交通株式会社 営業推進室 課長	欠席
	坂本 頼幸	南海バス労働組合 組合委員	
	安達 良夫	小吹台北自治会長	
	浦野 功	中津原地区長	
	川邊 清	千早赤阪村社会福祉協議会長	
	井関 弘明	千早赤阪村観光協会長	
	内田 雅之	国土交通省近畿運輸局 大阪運輸支局総務企画部門 首席運輸企画専門官	
	中村 洋一	国土交通省近畿運輸局 大阪運輸支局輸送部門 首席運輸企画専門官	欠席
	鬼追 弘臣	大阪府都市整備部 交通戦略室交通計画課長	(代理出席) 交通計画課 主査 野村 雄樹
	高平 一哉	大阪府富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	欠席
	伊東 和正	大阪府警察本部 富田林警察署 交通課長	(代理出席) 交通課 課長代理 安尾 弘二

令和5年度第4回千早赤阪村地域公共交通協議会 配席図

日時: 令和6年1月25日 15:00～
場所: くすのきホール2階第2会議室



【議題1号】


千早赤阪村地域公共交通計画 について

地域公共交通計画策定スケジュール

令和5年度	<p>地域公共交通計画策定業務発注</p> <ul style="list-style-type: none">● 基礎調査・分析● 関連計画の整理	8/23 第1回村地域公共交通協議会
	<ul style="list-style-type: none">● 現状と課題● 基本方針・計画目標	1/25【今回】 第4回村地域公共交通協議会
	<p>素案作成</p> <ul style="list-style-type: none">● 目標達成のための施策	3月中旬（予定） 第5回村地域公共交通協議会
	パブコメ	
令和6年度	<p>案作成</p> <p>《計画策定・公表》</p>	4月下旬（予定） 第1回村地域公共交通協議会

1. はじめに
 2. 千早赤阪村の現状
 3. 上位・関連計画
 4. 千早赤阪村の公共交通の現状
 5. 公共交通の課題
 6. 計画の基本方針・目標
-

7. 目標達成のための施策
8. 計画の推進



次回の交通会議
で審議

1. はじめに

1-1 計画策定の目的

1-2 計画期間

1-3 計画区域

1-4 計画の位置づけ

2. 千早赤阪村の現状

3. 上位・関連計画

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

5. 公共交通の課題

6. 計画の基本方針

7. 目標達成のための施策

8. 計画の推進

1. はじめに

1-1 計画策定の目的

- 人口急減・超高齢化が進行する本村において、地域活力再生の観点からも持続可能な公共交通の維持・確保が必要不可欠
- 令和5年12月、金剛バス廃止後の代替交通として、富田林市、太子町、河南町、本村の4市町村で構成する協議会によりコミュニティバスの運行を開始
- 将来にわたり村民がいきいきと暮らすことができるよう持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、新たに「千早赤阪村地域公共交通計画」を策定するもの

1. はじめに

1-2 計画期間

令和6年度（計画策定後）～令和11年度（6年間）

- 「第5次千早赤阪村総合計画」と整合を図る
- 社会情勢の変化や関係法令の改正等にあわせ、適宜必要な見直しを行う

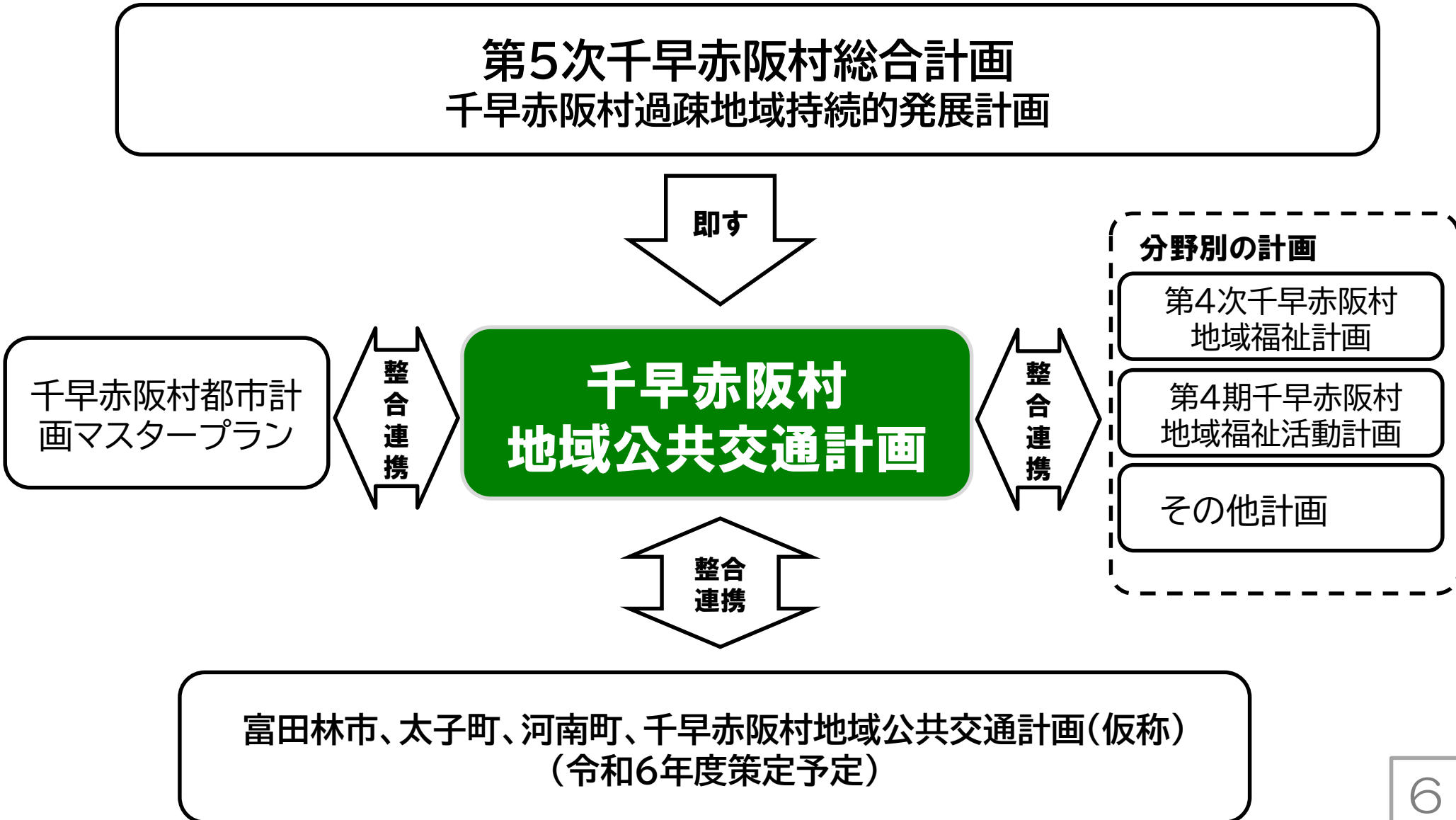
1-3 計画区域

千早赤阪村全域

- 路線バスについては、近隣市町へも運行していることや、村民等の移動についても近隣市町への移動が考えられることから、区域外についても関係自治体と連携していく

1. はじめに

1-4 計画の位置づけ



1. はじめに

2. 千早赤阪村の現状

2-1 人口

2-2 通勤・通学流動

2-3 施設分布

2-4 道路ネットワーク

3. 上位・関連計画

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

5. 公共交通の課題

6. 計画の基本方針

7. 目標達成のための施策

8. 計画の推進

2. 千早赤阪村の現状

2-1 人口

○令和2年（2020年）人口は4,909人で、平成22年（2010年）からの10年間で1,106人（18.4%）減少
○令和2年（2020年）の高齢化率は45.5%（府平均27.6%）で、平成22年（2010年）からの10年間で14.3ポイント増加

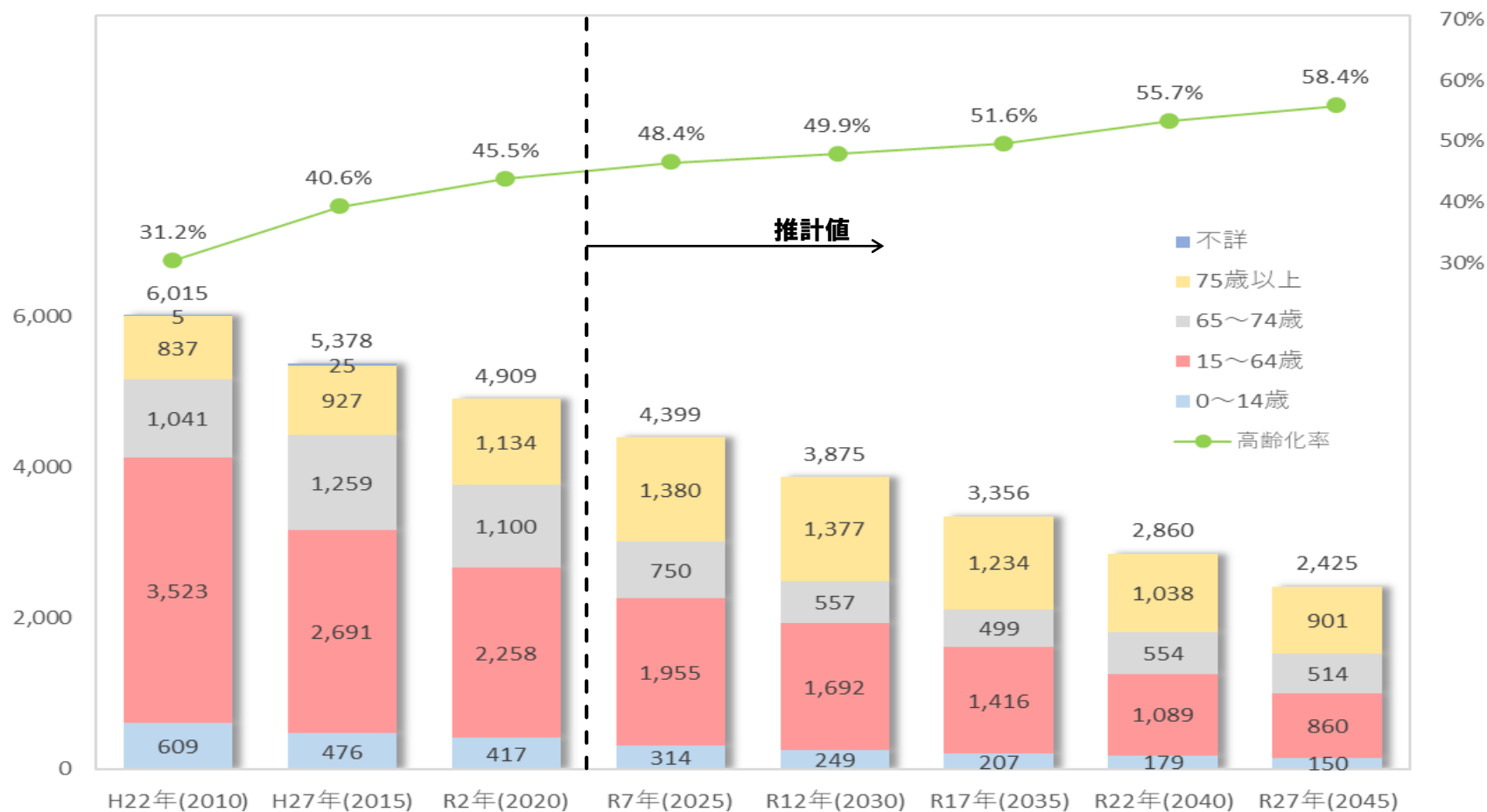


図 人口動態

(資料)国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和5年推計)

2. 千早赤阪村の現状

2-2 通勤・通学流動

- 村内に在住する就業者・通学者2,510人のうち947人（37.7%）が村内で通勤・通学し、1,563人（62.3%）が村外へ通勤・通学している
- 村外への通勤・通学者のうち富田林市が342人（21.9%）と最も多く、次いで大阪市262人（16.8%）、河内長野市223人（14.3%）、堺市194人（12.4%）と続く

本村に常住する就業者・通学者	2,510人
うち村外で従業・通学	1,563人
本村内での従業・通学者	1,135人
うち村外に常住	1,105人

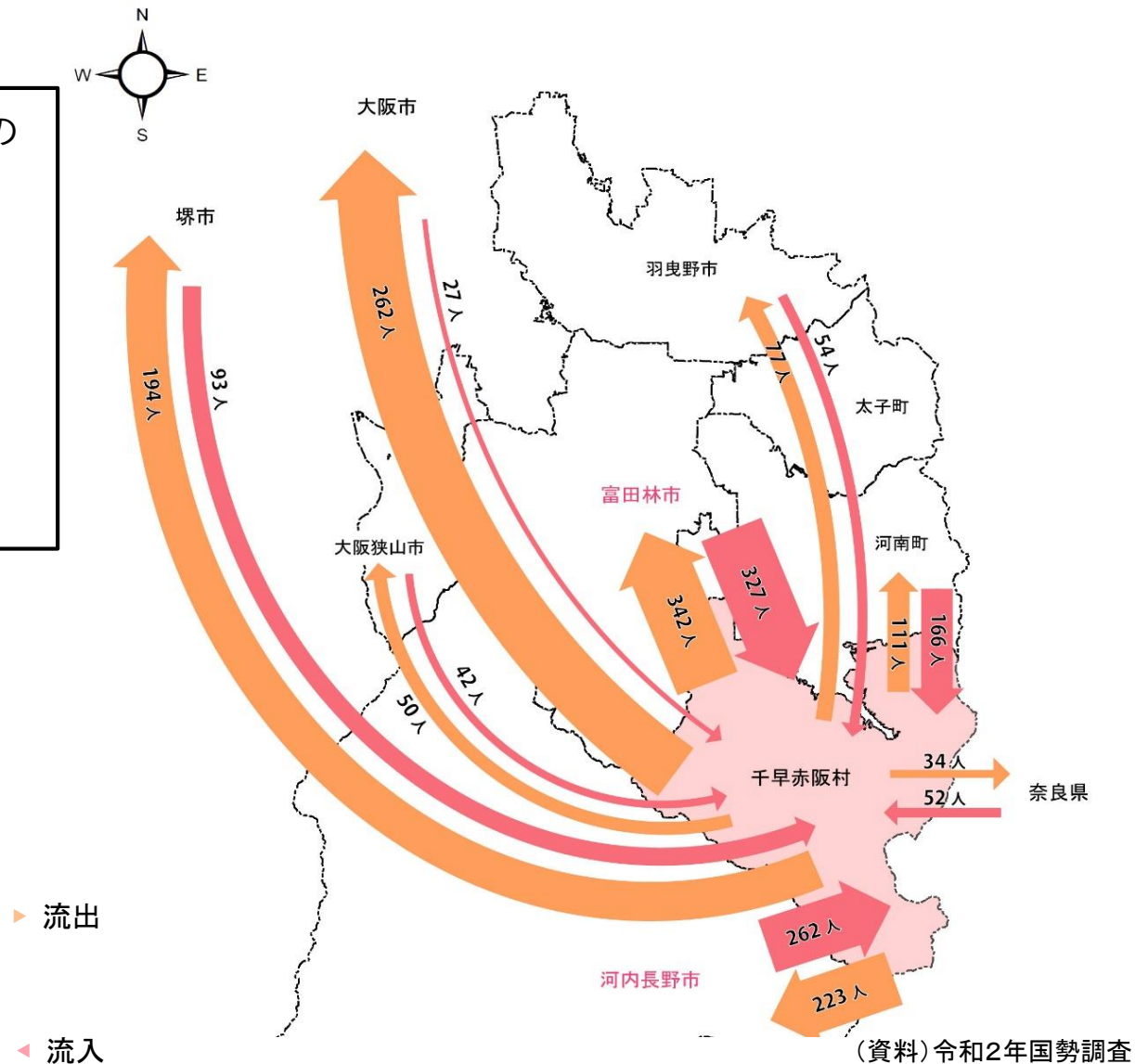
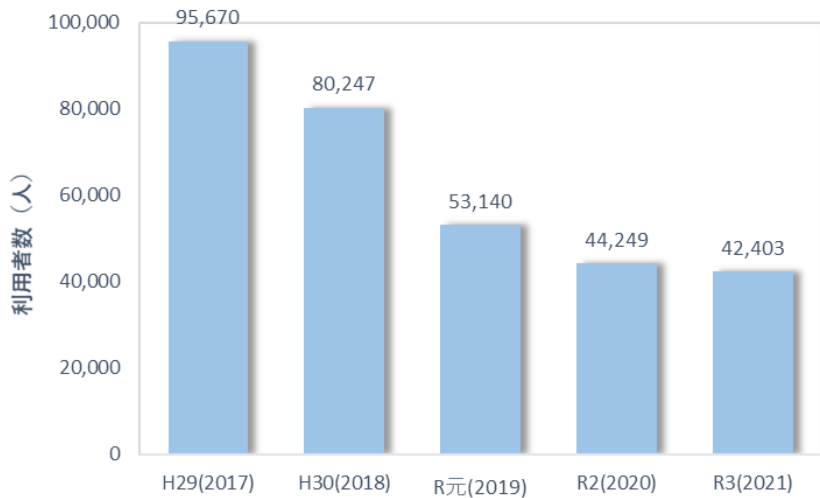


図 通勤・通学流動状況

2. 千早赤阪村の現状

2-3 施設分布

- 役場、学校、福祉施設など主な施設は、ほとんどが府道（富田林五条線、東阪三日市線）沿道沿いや小吹台地区に集積
- 奈良県御所市との府県境に位置する府内最高峰の金剛山は、年間を通して多くの登山客や家族連れが訪れる



(資料)大阪府HP

図 ちはや園地利用者数の推移

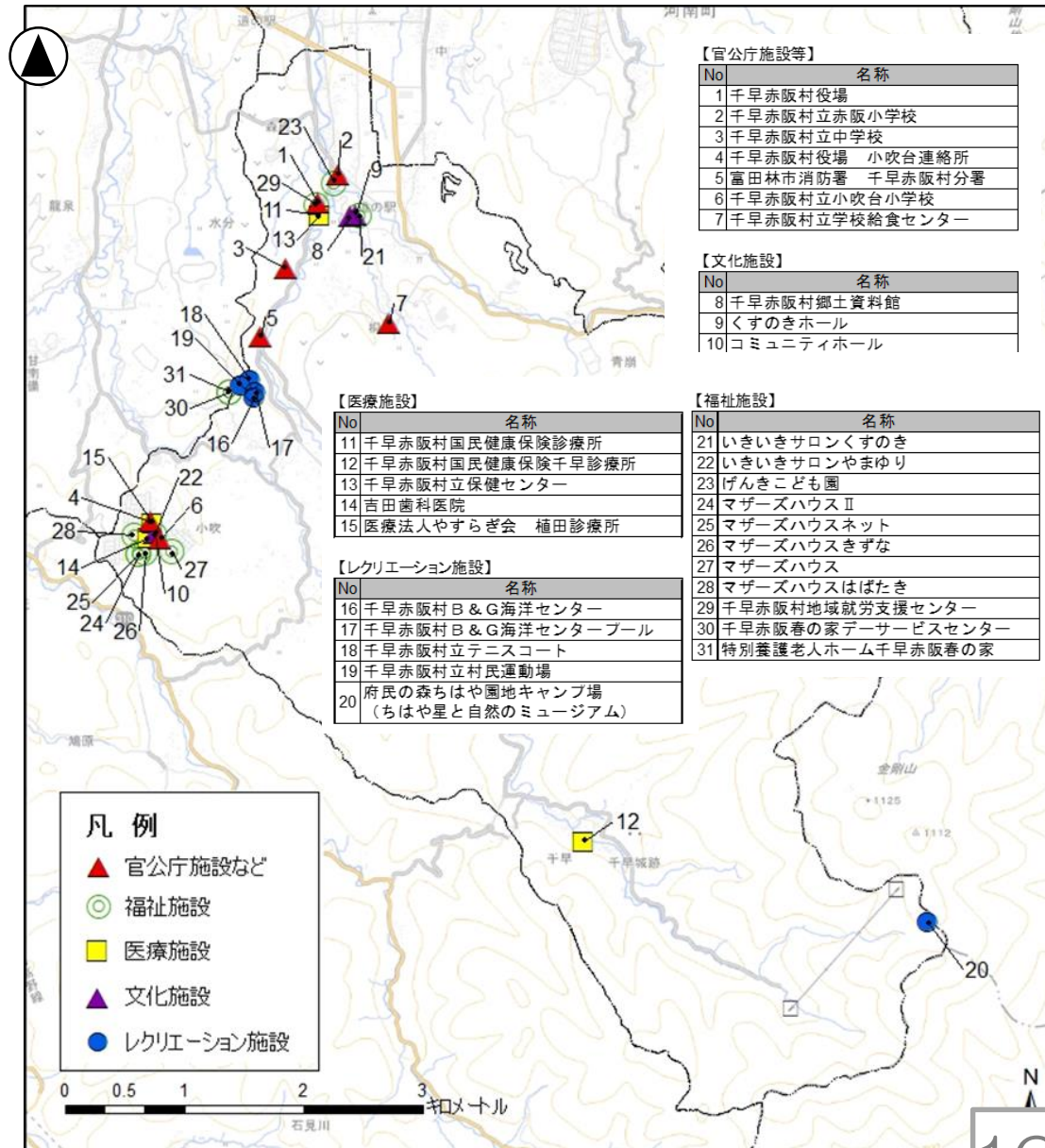


図 主要施設分布

2. 千早赤阪村の現状

2-4 道路ネットワーク

- 国道309号は大阪都心と本村を結び奈良県につながる村内唯一の広域幹線道路
- 府道6路線は村の各拠点をつ結ぶとともに鉄道駅や隣接市町へのアクセス路線となっている



図 道路現況図

1. はじめに

2. 千早赤阪村の現状

3. 上位・関連計画

3-1 第5次千早赤阪村総合計画

3-2 第3次千早赤阪村都市計画マスタープラン

3-3 第4次千早赤阪村地域福祉計画

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

5. 公共交通の課題

6. 計画の基本方針

7. 目標達成のための施策

8. 計画の推進

3. 上位・関連計画

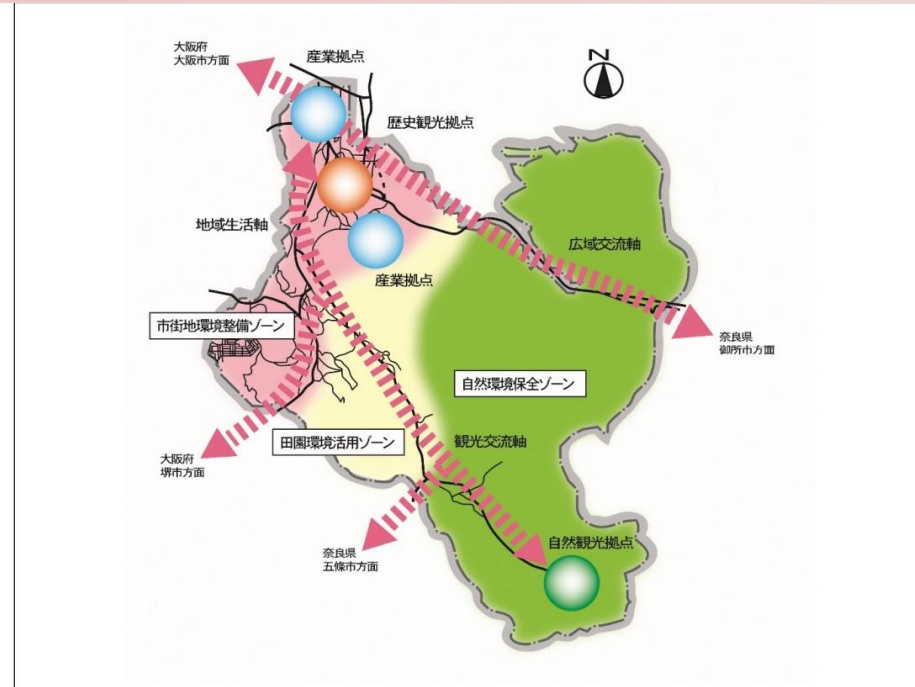
3-1 第5次千早赤阪村総合計画

むらの将来像

元気なあいさつで みんなで創る
『唯一』と である 金剛山のむら

■ 基本目標

- 子どもから大人まで支えあい健やかに
過ごせるむら
－子育て・健康・医療・福祉－
- 地域の恵みを生かした人がつながるむら
－産業・地域振興・観光－
- 心の豊かさをはぐくむむら
－教育・文化・生涯学習・人権－
- 自然と共生する住みよいむら
－安全・安心・生活基盤・環境－
- 協働と参画による自立したむら
－協働・行政経営－



土地利用	市街地環境整備ゾーン	本村北側に位置し、集落地、住宅地、工場地等が集積する地域
	田園環境活用ゾーン	棚田等の農山村風景が広がる本村の中央部の山林及び田園地域
	自然環境保全ゾーン	金剛葛城山系で国定公園指定がなされている緑豊かな自然地域
軸形成	広域交流軸	国道309号（河南赤阪バイパスを含む）を中心とする大阪府中央部と奈良県御所市方面を結ぶ広域軸
	観光交流軸	本村に点在する観光施設及びレクリエーション拠点を結ぶ主に府道富田林五条線を中心とする都市軸
	地域生活軸	本村の北部市街地と西部市街地を結ぶ連絡道路で、市街地環境整備ゾーンの骨ともなる基本軸
拠点形成	産業拠点	大森地区・森屋北西部地区等の工業や商業といった都市機能の集積をめざす拠点
	歴史観光拠点	楠木正成にまつわる歴史資源が集積する地区で、交流人口の拡大をめざす拠点
	自然観光拠点	金剛山登山口及びまとまった公共施設の跡地等で、宿泊施設、レクリエーション施設、飲食施設、研修施設等の集積整備をめざす拠点

図 土地利用方針

(資料)第5次千早赤阪村総合計画

3. 上位・関連計画

3-2 第3次千早赤阪村都市計画マスタープラン

■ 道路交通の整備方針

1. 軸道路の設定（国道309号、府道富田林五条線等）

2. 広域交通とのネットワークの形成

○くすのきホール、郷土資料館、楠公誕生地など人の集まる「道の駅 ちはやあかさか」周辺への交通アクセスの向上を図る

3. 村内の地域間を連絡する道路整備

4. 生活道路の整備

5. 村外と連絡する公共交通の充実

○近鉄富田林駅、近鉄及び南海河内長野駅へのバスの運行の増便や運行時間の延長、新たな路線設定などについてバス会社等と連携し、バス交通の充実に努める

○高齢者をはじめ村民の村内外への移動の利便性向上を図るため、NPO 法人等によるコミュニティバスや乗合タクシーの導入に向け調査等を実施する。

3. 上位・関連計画

3-3 第4次千早赤阪村地域福祉計画

基本理念	基本目標
子どもから大人まで支えあい健やかに過ごせるむらづくり	I 地域のつながりづくり（人づくり）
	II 安全・安心の環境づくり
	III 福祉を支える力の推進（仕組みづくり）

■公共交通関連（抜粋）

II 安全・安心の環境づくり (3)みんなでつくる暮らしやすいむらづくり

<現状と課題>

○徒歩や自転車、公共交通機関の利用などにおいて、安心して外出、移動できるような環境を整備して、だれもが暮らしやすいむらづくりを進めていく必要がある

<施策の方向性>

- アクセス面とバリアフリー環境の整備により、だれもが安全に暮らせる地域づくりに努める
- 機関紙などにより福祉意識の啓発を進め、地域住民一人ひとりがお互いに思いやりを持てる、暮らしやすい地域づくりを推進する

<村の取り組み>

- 交通網の整備不足を解消するため、送迎支援を含め、アクセス面での工夫に努める
- 公共施設などのバリアフリー化を推進する
- 府福祉のまちづくり条例に基づき公共交通機関の整備に努める

1. はじめに
2. 千早赤阪村の現状
3. 上位・関連計画

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

- 4-1 村内公共交通体系
- 4-2 交通空白地域
- 4-3 公共交通関連財政支出
- 4-4 移動ニーズ

5. 公共交通の課題
6. 計画の基本方針
7. 目標達成のための施策
8. 計画の推進

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-1 村内公共交通体系

■ 村内の公共交通

表 村内の公共交通一覧

種別・区間		運行時間帯等			運営/運行	
路線バス	千早線	富田林駅⇔ 千早赤阪村立中学校前	平日	6:15~20:32	上り下り各12便	広域協議会/南海バス
			土日祝	平日と同じ	平日と同じ	
		富田林駅⇔ 千早赤阪村立中学校前	平日	6:55~8:59, 16:45~22:12	上り下り各7便	広域協議会/千早赤阪村
			土日祝	平日と同じ	平日と同じ	
		千早赤阪村立中学校前⇔ 金剛登山口	平日	5:50~20:54	上り下り各12便	千早赤阪村
			土日祝	平日と同じ	平日と同じ	
	白木線	富田林駅⇔東水分	平日	6:40~21:01	上り下り各6便	広域協議会/河南町
			土日祝	平日と同じ	平日と同じ	
	小深線	河内長野駅前⇔ 金剛山ロープウェイ前	平日	7:30~17:20	上り下り各9便	南海バス
			土日祝	6:40~17:50	上り20便, 下り22便	
	小吹台 団地線	河内長野駅前⇔小吹台	平日	5:56~23:05	上り20便, 下り22便	南海バス
			土日祝	6:10~22:26	上り17便, 下り16便	
タクシー	村内に事業所なし 近鉄タクシー（羽曳野市）、大阪第一交通（堺市堺区）					
鉄道	村内に鉄道なし（富田林駅及び河内長野駅へ路線バスが接続） 富田林駅（近鉄長野線）、河内長野駅（近鉄長野線、南海高野線）					

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-1 村内公共交通体系

■ 村内のバス路線図

凡例






	路線(区間)	運行
	千早線 (富田林駅⇔千早赤阪村立中学校前)	南海バス 千早赤阪村
	千早線 (千早赤阪村立中学校前⇔金剛登山口)	千早赤阪村
	白木線 (富田林駅⇔東水分)	河南町
	小深線 (河内長野駅前⇔金剛山ロープウェイ前)	南海バス
	小吹台団地線 (河内長野駅前⇔小吹台)	南海バス



図 村内のバス路線図

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-1 村内公共交通体系

■ その他の公共交通（「いきいきサロン送迎」及び「国民健康保険診療所送迎」）

	いきいきサロン送迎サービス	国民健康保険診療所送迎サービス（業務）
対 象	<ul style="list-style-type: none">・いきいきサロン利用者・60歳以上の高齢者及び身体障害者手帳の交付を受けた人・介助の必要がなく移動手段のない人	千早赤阪村に住民票を持ち、村国保診療所・村国保千早診療所に受診する人で介助が必要でない人
区 間	<ul style="list-style-type: none">・各地区⇔「いきいきサロンくすのき」・各地区⇔「いきいきサロンやまゆり」	自宅と診療所の往復（村内に限る）
利 用 方 法	<ul style="list-style-type: none">・希望日の1週間前までに電話等で予約・原則、利用は週2回まで	利用する2日前までに診療所へ申込 （来院時に次回の予約をすることも可）
運 行 日 時	月・水・金の8:30～17:00	国民健康保険診療所の診断時間内
利 用 料	無料	無料
実 施 主 体	村社会福祉協議会	村健康課
運 行	シルバー人材センター	シルバー人材センター

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-1 村内公共交通体系

■ その他の公共交通（スクールバス）

村内3小中学校の学生を対象にスクールバスを運行

● 赤阪小学校（4人／77人）

登校	1便	小学校	千早
下校	2便		

● 村立中学校（9人／98人）

※定期利用者の人数

登校	1便	中学校	小吹台
下校	2便		

【凡例】 ○○学校（利用者数／学生数）

※小学校は無料

※中学校は1月4,000円（1回150円）

● 千早小吹台小学校（26人／86人）

登校	1便	Aコース	小学校	東阪	
下校	2便	Bコース	小学校	中津原	小吹

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-2 交通空白地域

○500mメッシュ人口（令和2（2020）年）とバス停利用圏域（400m※）から、交通空白地域の人口は、1,398人で、総人口4,909人（R2）に対して28.5%を占める

※一般的にバス停利用圏域は300～500mと言われており、本計画では400mとする

○交通空白地域の多くは中津原地区や桐山地区などで存在する

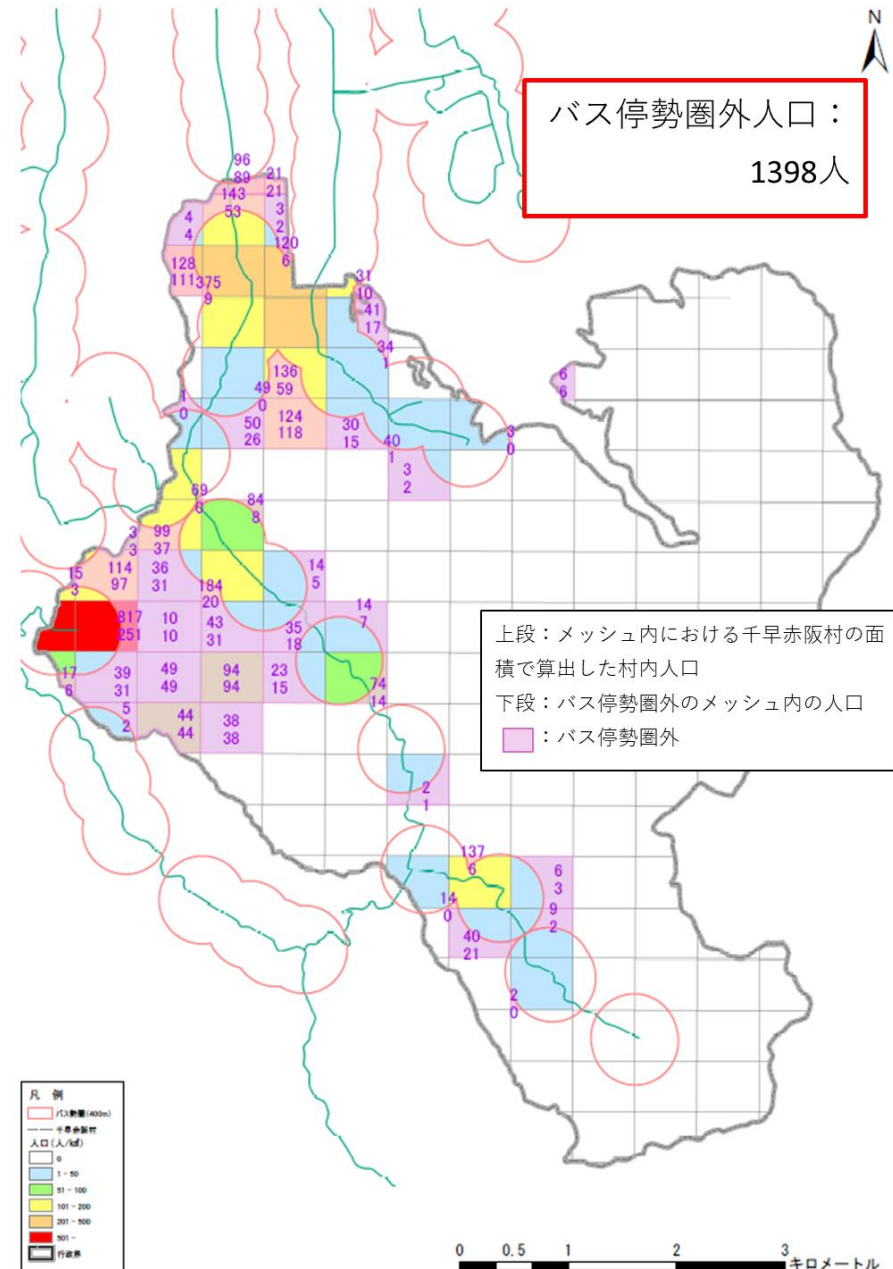


図 路線バスのバス停利用圏域図

4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-3 公共交通財政支出

- 金剛バス廃止により令和5年（2023年）12月21日から、新たに4市町村及び本村でコミュニティバスの運行開始するため補正予算25,498千円を計上、現時点の公共交通関連事業に関する令和5年度予算は44,507千円（いきいきサロン送迎事業除く）となっている
- 支出内訳としては、村コミバスが17,659千円、4市町村コミバス7,839千円、スクールバス11,492千円等となっている

事業	内容	R5予算額	備考
村コミバス	運行委託料 バス借上料	17,659千円	R5補正予算 (12/21~3/31)
4市町村コミバス	負担金	7,839千円	R5補正予算 (12/21~3/31)
スクールバス	運行委託料	11,492千円	R5当初予算
国民健康保険診療所送迎サービス	運行手数料	317千円	R5当初予算
地域公共交通利用料助成事業	12千円/年・人	7,200千円	R5当初予算
いきいきサロン送迎事業	運行委託料	180千円	社会福祉協議会予算

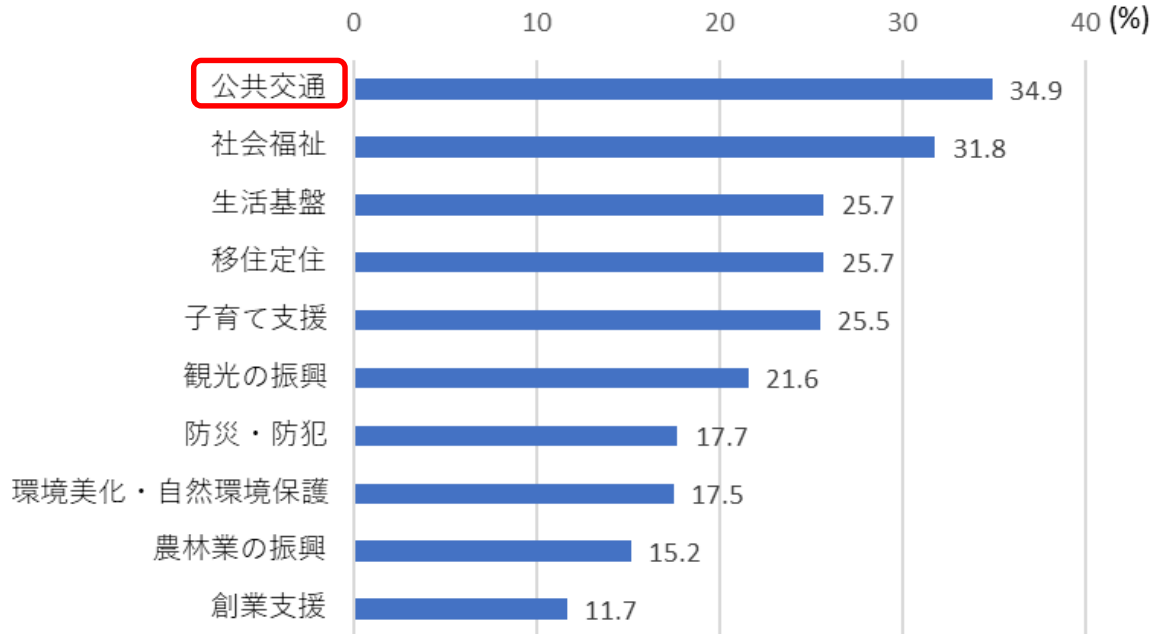
4. 千早赤阪村の公共交通の現状

4-4 移動ニーズ

- むらづくりの重点分野として、公共交通の割合が最も高く、買い物など日常生活での不便を感じている村民が多い
- ほぼすべての事業者は、村内で事業継続意向だが、道路整備や公共交通機関の充実を期待されている

■ 村民アンケート

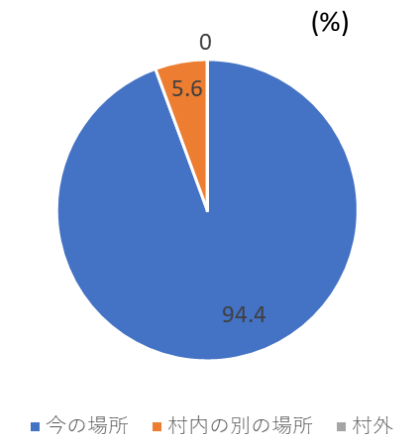
Q.むらづくりをする上で重点的に行うべき分野



実施日	対象者	回答数
R2. 3. 9-3. 30	村在住18歳以上の男女1,000人	487人

■ 事業所アンケート

Q.村内での事業継続意向



Q.村に足りないもの

- 道路関係
 - ・高速道路まで遠い
 - ・道路が狭く、線形不良
- 公共交通
 - ・バスの本数が少ない
 - ・通勤の便が悪い
- 情報通信
 - ・携帯の電波が弱い
 - ・Wi-Fiの選択枠が少ない
- 村外から人を呼べる施設がない

実施日	対象者	回答数
R4. 8. 12-8. 31	村内で活動している事業所60社	17社

1. はじめに
2. 千早赤阪村の現状
3. 上位・関連計画
4. 千早赤阪村の公共交通の現状

5. 公共交通の課題

6. 計画の基本方針
7. 目標達成のための施策
8. 計画の推進

5. 公共交通の課題

1. 利用者ニーズに応じた交通サービスの確保

- 金剛バス廃止に伴い、住民の通勤・通学を最優先としてコミュニティバスの運行を開始、今後、観光、福祉・健康、教育施策とも連携して、持続可能で最適な公共交通体系の確立
- 千早線において、富田林駅から金剛登山口方面に移動に際し、「千早赤阪 村立中学校前」で乗換が必要、将来むらづくりと協調した交通結節点となる拠点機能の拡充・強化が重要

2. 交通空白地域の解消

- 超高齢社会下にある本村において、高齢者等の通院、買い物といった日常生活に伴う移動手段の確保は待ったなしの課題、高齢者等が安心して暮らし続けることができるよう各地域に適した移動手段の確保

3. 公共交通の利用促進

- 将来にわたり公共交通が維持できるよう、村民の公共交通に対する意識改善を図る
- 利用しやすいコミュニティバスの環境整備として、運賃システムの改善、複数の交通手段や観光施設等との連携、乗降しやすい運行車両の導入等について検討

5. 公共交通の課題

4. 財政負担の抑制

- 道路などの都市インフラ施設と同様に公共交通は、公共財に準じる社会資本であると認識
- 公共交通の利用実態調査を行い、その結果を踏まえ、需要に見合った交通サービスを検討するとともに、本村の交通資源であるスクールバスとコミュニティバスの共同運行についても検討
- コミュニティバスの運賃については、金剛バスの運賃を継承しているが、物価高騰といった社会経済情勢を踏まえ、適切な料金体系を検討

5. 新たなモビリティサービスへの対応

- 国において「ライドシェア」に関する制度改正が行われ、2024年4月から条件付きで利用可能
- 大阪府では、持続可能な地域公共交通を確保するため、自動運転バスの運行に関する検討が進められている
- 国や府の動向も視野にいれて、本村の公共交通への導入に向けた取組が必要

1. はじめに
2. 千早赤阪村の現状
3. 上位・関連計画
4. 千早赤阪村の公共交通の現状
5. 公共交通の課題

6. 計画の基本方針

7. 目標達成のための施策
8. 計画の推進

6. 計画の基本方針

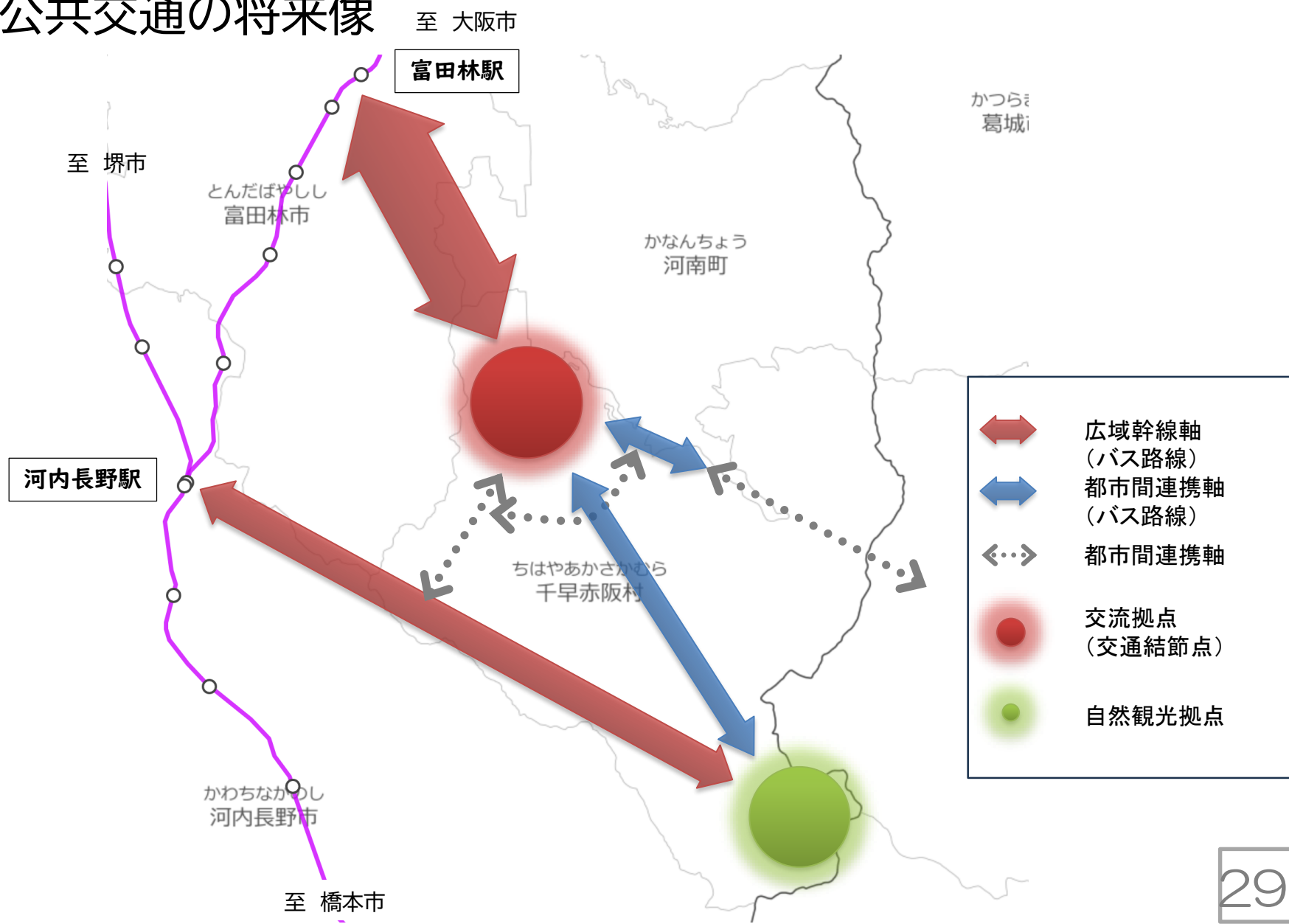
6-1 基本理念と基本方針

上位計画である第5次千早赤阪村総合計画で本村の将来像として掲げる
「元気なあいさつで みんなで創る『唯一』と である 金剛山のむら」
を本計画の基本理念とする

<p>基本方針 1 日常的な生活の移動を支える 持続可能な公共交通</p>	<ul style="list-style-type: none">● 本村のコミュニティバスや、タクシーの利用促進等により、公共交通空白地域を解消し、村民の日常生活の移動を支える持続可能な地域公共交通網の形成を図る● 高齢者等の公共交通利用料等の負担軽減を図り、利用しやすい地域公共交通を目指す
<p>基本方針 2 つながりを強化する公共交通</p>	<ul style="list-style-type: none">● 金剛バス撤退後の新たな交通サービスについて、関係市町と連携して、更なる利便性向上に向け取り組む● 金剛山登山や観光目的で村外から訪れる方々が容易に目的地に移動できるよう、公共交通サービスの強化を目指す
<p>基本方針 3 村民や行政、交通事業者等が 協働・連携し創り支える公共 交通</p>	<ul style="list-style-type: none">● 将来にわたり公共交通が維持できるよう村民や行政、各事業者が協働・連携した利用促進の取組を通じて、村民の公共交通に対する意識改善を図る● 地域特性やニーズに応じた公共交通について、地域主導で創り支える生活交通手段の取り組みを支援する

6. 計画の基本方針

6-2 地域公共交通の将来像



6. 計画の基本方針

【参考】 施策イメージ

基本方針1 日常的な生活の移動を支える持続可能な公共交通	
<ul style="list-style-type: none">● 本村のコミュニティバスや、タクシーの利用促進等により、公共交通空白地域を解消し、村民の日常生活の移動を支える持続可能な地域公共交通網の形成を図る● 高齢者等の公共交通利用料等の負担軽減を図り、利用しやすい地域公共交通を目指す	<ul style="list-style-type: none">○千早赤阪村コミュニティバスの運行○いきいきサロン送迎サービス○国民健康保険診療所送迎サービス○スクールバスの運行○地域公共交通利用料助成事業○SNN等を利用した交通情報の発信 等
基本方針2 つながり強化する公共交通	
<ul style="list-style-type: none">● 金剛バス撤退後の新たな交通サービスについて、関係市町と連携して、更なる利便性向上に向け取り組む● 金剛山登山や観光目的で村外から訪れる方々が容易に目的地に移動できるよう、公共交通サービスの強化を目指す	<ul style="list-style-type: none">○公共交通（路線バス）利用実態調査の実施○交通結節点機能強化・充実検討○千早赤阪村コミュニティバスの補完運行○交通系ICやスマホ定期等の導入検討○安全運行確保のための冬季路面凍結対策 等
基本方針3 村民や行政、交通事業者等が協働・連携し創り支える公共交通	
<ul style="list-style-type: none">● 将来にわたり公共交通が維持できるよう村民や行政、各事業者が協働・連携した利用促進の取組を通じて、村民の公共交通に対する意識改善を図る● 地域特性やニーズに応じた公共交通について、地域主導で創り支える生活交通手段の取り組みを支援する	<ul style="list-style-type: none">○「ライドシェア」など新たなモビリティサービスの導入検討○「押忍！スマホ道場」を通じた高齢者支援○公共交通の利用促進に向けた啓発活動 等

1. はじめに
2. 千早赤阪村の現状
3. 上位・関連計画
4. 千早赤阪村の公共交通の現状
5. 公共交通の課題
6. 計画の基本方針

《次回審議》

7. 目標達成のための施策
8. 計画の推進

【議題2号】

地域公共交通調査事業の事業評価
について

●事業評価とは

今回、地域公共交通計画を策定するにあたり、補助金（地域公共交通調査事業）の交付を受けています。

協議会自ら事業の実施状況の確認・評価を行うことで、より効率的な事業執行が求められている

交付年度の1月末までに協議会において事業評価を行い、近畿運輸局に報告するものです。

●事業内容

地域公共交通計画策定をするための

○基礎調査・分析の実施

○地域公共交通計画の策定

○協議会の運営支援

●実施内容

○データ整理・分析

○関連計画との整合や調査結果に基づき課題の抽出

○広域協議会での審議内容等に基づき、協議会に諮るための計画素案を現在作成中

●基本理念

「元気なあいさつで みんなと創る「唯一」とであえる 金剛山のむら」

●基本方針

○日常的な生活の移動を支える持続可能な公共交通

○つながりを強化する公共交通

○村民や行政、交通事業者等が協働・連携し創り支える公共交通

これまでの取組経緯等

これまでの取組経緯

- 既存データの整理や現況調査結果など各種資料の調査・分析を実施
- 第5次千早赤阪村総合計画など上位計画並びに関連計画との整合
- 千早赤阪村地域公共交通協議会へ図るための資料等作成及び運営支援

具体的な取組

- 金剛バス廃止に伴い、4市町村で新たにコミュニティバスの運行開始
- 本村も自家用旅客運送によるコミュニティバスの運行開始

課題

- 金剛バスの廃止に伴い、路線や便数の減少になったため、一部地区住民や観光目的での利用ができなくなった

対応方針

- 広域協議会と連携して実態調査を行い、利用ニーズを把握し、広域計画（令和6年度作成予定）と整合を図り、本計画に反映していく

事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名:千早赤阪村地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定等に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査・分析の実施 ・地域公共交通計画の策定 ・協議会の運営支援 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のデータの整理や現況調査結果など各種資料の調査・分析を実施した ・調査結果等を踏まえ、「千早赤阪村地域公共交通協議会」(3回予定)へ図るための資料等作成及び運営支援を頂いた ・「富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化」での審議内容も踏まえ、本村交通計画案を作成していく 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施される見込み</p>	<p>当該計画策定にあたっては、上位計画である第5次千早赤阪村総合計画に即するとともに、千早赤阪村都市計画マスタープラン等の関連計画との連携・整合を図り、以下のとおり計画の理念や方針、目標を策定する【基本理念(案)】(本村総合計画と同じ基本理念を設定)</p> <p>「元氣なあいさつで みんなと創る「唯一」とである金剛山のむら」</p> <p>【基本方針(案)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日常的な生活の移動を支える持続可能な公共交通 ②つながりを強化する公共交通 ③村民や行政、交通事業者等が協働・連携し創り支える公共交通 <p>【目標】</p> <p>基本方針に基づき、課題解決に向けた目標を設定していく</p>

千早赤阪村地域公共交通協議会（ネットワーク全体の評価）

1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

○地域特性

本村は、大阪府南東部、南河内地域に位置し、金剛山・葛城山地を隔て奈良県御所市、五條市と隣接している。

村域の80%以上が山林・原野であり、市街地は北部地域、西部地域及び千早川に沿った地域に分布している。

主要な道路は、大阪都心と本村を結ぶ国道309号と、村の各拠点を結ぶとともに鉄道駅等にアクセスする府道6路線が配置されている。

本村の公共交通としては、富田林駅を起点とする4市町村（富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村）が運営するコミュニティバスが2系統（千早線、白木線）、河内長野駅を起点とする南海バス2系統（小深線、小吹台団地線）、加えて、本村が運営するコミュニティバスが走行している。

また、タクシーは大阪第一交通並びに近鉄タクシーの2社が村内において営業されている。

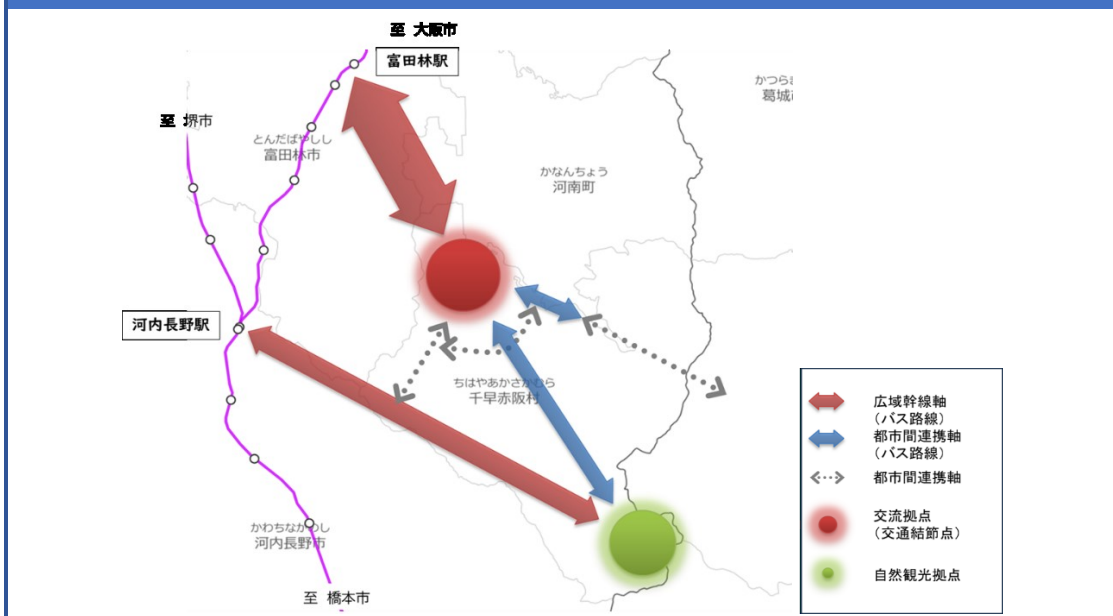
○計画の基本方針【計画作成中】

- ① 日常的な生活の移動を支える持続可能な公共交通
- ② つながり強化する公共交通
- ③ 村民や行政、交通事業者等が協働・連携し創り支える公共交通

○計画の目標及び期間【計画作成中】

令和6年度（計画策定後）から令和11年度の6年間

公共交通ネットワークのイメージ図



2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

【計画作成中】

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

計画策定にあたり、既存データの整理や現況調査結果など各種資料の調査・分析を行うとともに、「本村地域公共交通協議会」や「富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会」での審議内容等に基づき、今年度内の計画案とりまとめに向け作成中である。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
計画策定事業	千早赤阪村地域公共交通協議会	令和5年度	策	地域公共交通計画の策定

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
		該当なし	

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
		該当なし	

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
	該当なし	

4. 具体的取組に対する評価

金剛バス廃止（12/20）に伴い、交通事業者の協力を得て、地域住民の通勤・通学の移動手段の確保を最優先に4市町村で新たにコミュニティバスの運行を開始した。本村においても、自家用有償旅客運送の登録を行い、コミュニティバスの運行を開始した。これらの新たな交通体系を反映した計画を策定する。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
金剛バスの廃止に伴い、村内におけるバス路線や便数が減少したため、一部地区住民や観光目的での利用ができなくなった。	「富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村地域公共交通活性化協議会」と連携し、公共交通利用実態調査などを行い、的確に利用ニーズを把握し、広域計画（R6 作成予定）と整合を図るとともに、本村計画にも反映していく。

千早赤阪村地域公共交通協議会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 20px;"> <p style="font-size: 1.2em;">該当なし</p> </div>		

2. アピールポイント、特に工夫した点など

本村の公共公益施設が立地する中心地域を走る千早線において、富田林駅から千早赤阪村立中学校までの区間は交通事業者が1時間1便で運行いただくこととなったが、概ね従来通り（金剛バスの時）の運行本数を確保するため、朝夕、本村においてコミュニティバスを運行することにより、通勤通学の時間帯における運行本数を確保することができ、本村公共交通ネットワークを構築する路線バスとして計画に位置づけていく。

【議題3号】

千早赤阪村地域公共交通利用料助成事業
について

- 事業目的 日常生活の利便性と住民福祉の向上
- 助成金額 $500\text{円/枚} \times 2\text{枚/月} \times 12\text{月} = 12,000\text{円}$
- 対象者
 - ① 満75歳以上
 - ② 身体障害者手帳 1 級・2 級、療育手帳 A、精神障害者保健福祉手帳 1 級
 - ③ 妊産婦等
 - ④ 運転経歴証明書の交付を受けた者

申請者の内訳

表 申請者の内訳の推移

上段：申請者数（人）

下段：割合（％）

年 度	75歳以上	身障手帳 1 級	身障手帳 2 級	療育手帳 A	精神手帳	妊 産 婦	運転経歴 証 明 書	計
令 和 2 年 度	486	11	5	2	1	4	8	517
	94.0	2.1	1.0	0.4	0.2	0.8	1.5	100.0
令 和 3 年 度	534	7	3	2	1	6	10	563
	94.8	1.2	0.5	0.4	0.2	1.1	1.8	100.0
令 和 4 年 度	577	9	4	1	1	2	12	606
	95.2	1.5	0.6	0.2	0.2	0.3	2.0	100.0
令 和 5 年 度 (1 2 月 末 まで)	597	9	4	2	1	3	14	630
	94.8	1.4	0.6	0.3	0.2	0.5	2.2	100.0

利用実績の推移

表 利用実績の推移

	単位	R2	R3	R4	R5(12月末)
対象者数 a	人	1,196	1,227	1,302	1,355
交付者数 b	人	517	563	606	630
交付率 b/a	%	43%	46%	47%	46%
交付枚数 c	枚	11,760	12,834	13,864	14,690
利用枚数 d	枚	7,495	8,297	8,565	8,256
利用率 d/c	%	64%	65%	62%	56%

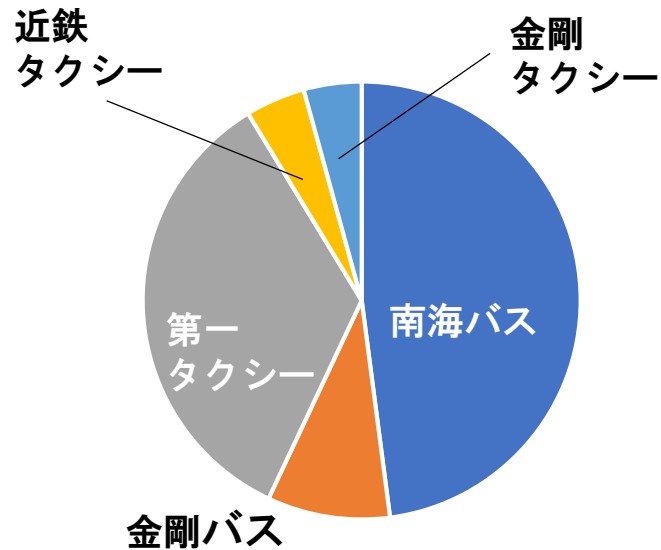
※対象者数は75歳以上の人数を記載

事業者別利用実績

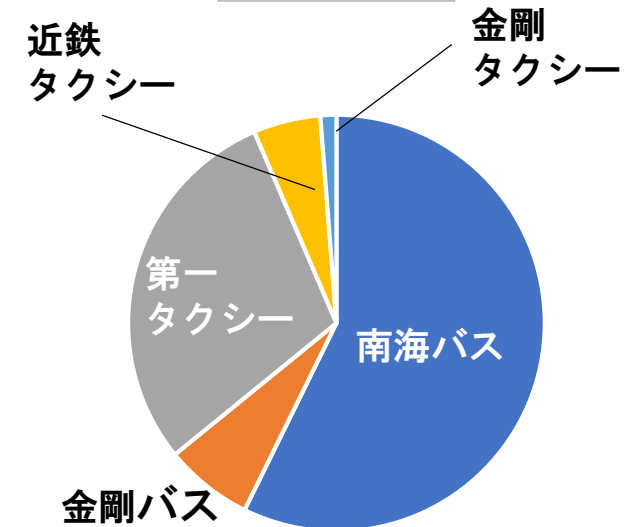
表 事業者別利用実績

事業者	令和4年度		令和5年度（12月末まで）	
南海バス	4,105	(48%)	4,728	(57%)
金剛バス	777	(9%)	566	(7%)
小計	4,882	(57%)	5,294	(64%)
第一タクシー	2,939	(35%)	2,429	(30%)
近鉄タクシー	378	(4%)	431	(5%)
金剛タクシー	366	(4%)	102	(1%)
小計	3,683	(43%)	2,962	(36%)
合計	8,565	(100%)	8,256	(100%)

令和4年度



令和5年度



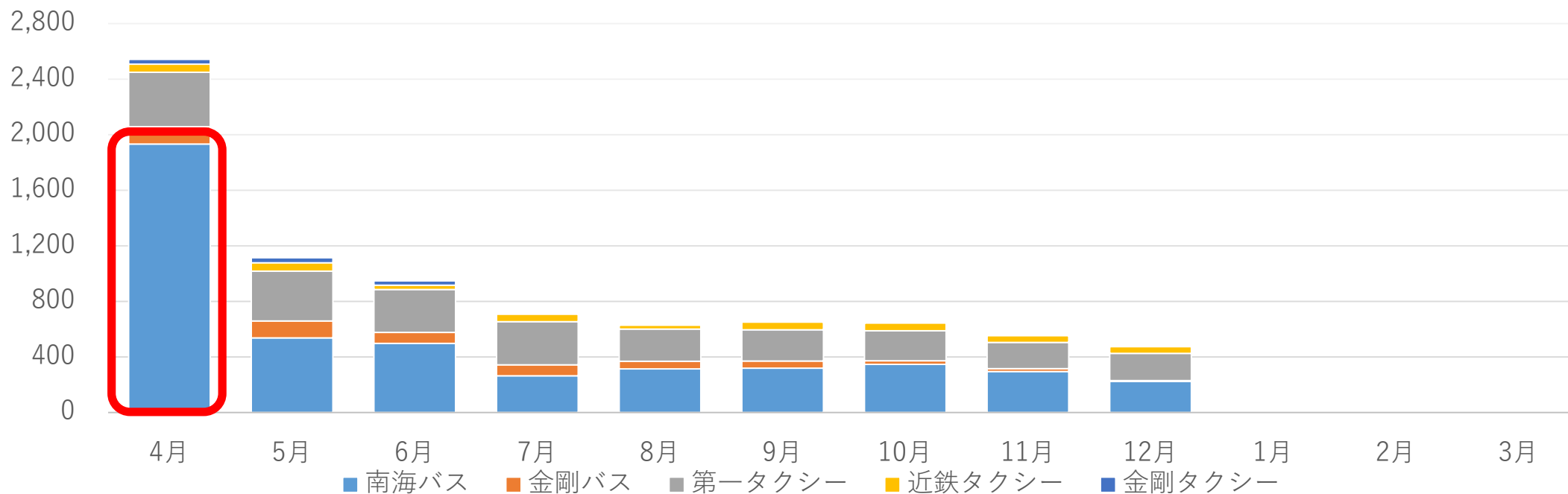
月別利用実績

利用実績（令和5年度）

表 月別利用実績

単位（枚）

事業者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
南海バス	1,933	537	498	264	313	318	347	295	223				4,728
金剛バス	125	122	79	79	56	52	25	21	7				566
第一タクシー	392	359	309	311	232	226	216	188	196				2,429
近鉄タクシー	57	59	31	52	26	54	55	49	48				431
金剛タクシー	35	37	30	0	0	0	0	0	0				102
合計	2,542 (31%)	1,114 (13%)	947 (11%)	706 (9%)	627 (8%)	650 (8%)	643 (8%)	553 (7%)	474 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8,256 (100%)



課 題

1. 千早線において、南海バスでは利用券を活用できるが、村コミバスでは使用できない
＜利用券の使用ができない区間＞
富田林駅⇔千早赤阪村立中学校前（南海バス運行車両除く）
千早赤阪村立中学校前⇔金剛登山口
2. 利用券の発行手続き等、担当者の事務作業が膨大
＜利用券の交付枚数実績＞

令和2年度	11,760枚
令和3年度	12,834枚
令和4年度	13,864枚
令和5年度	14,690枚（12月末まで）
3. 令和3年度までは利用時期が年度末に集中していたので、利用時期の平準化を目的として、令和4年度から利用券の使用期間を1か月単位としてきたが、年度当初に「なっちカード」（南海バス）にチャージする利用者が多く、目的と乖離している。

対応案

- 1, 2. 村コミバスにおいて、交通系 I Cカード (PiTaPa・ICOCA等)の導入検討及び当該助成事業が利用可能なキャッシュレスサービスの導入可否を検討
 - なっちカード…プリペイド式運賃精算用カード
 - スマートフォン決済、QRコード決済 など

<南海バスで利用可能>

 - ・ なっち、交通系 I Cカード (PiTaPa・ICOCA等)

<近鉄バスで利用可能>

 - ・ 交通系 I Cカード (PiTaPa・ICOCA等)
3. 使用期間を1か月間から1か年間に見直し
 - 令和6年度からは使用期間を1か年として利用券の利便性向上を図る
 - 金剛バス廃止により、バス路線や便数が減少し村内の交通空白地が増加、当面は当該助成事業を継続していくが、今後、利用券の利用状況や、村公共交通計画を踏まえ必要な見直しを行う

千早赤阪村コミュニティバス 運行状況について

乗車人数（令和5年12月21日～令和6年1月21日）

1日平均乗車人数

表 日当たり平均乗車人数

単位：人/日

	南海バス （駅⇔中学校）	村バス （駅⇔中学校）	村バス （中学校⇔登山口）	合計
平日のみ	182.9	105.8	35.1	323.8
休日のみ	113.9	39.0	28.7	181.6
合計	148.4	72.4	31.9	252.7

